

第6回 大町市水道事業等経営審議会 資料

水道料金の改定について



令和8年8月17日

大町市 上下水道課

本日の説明内容

1

前回審議会の確認

料金収入の不足額と必要な改定率

3

総括原価の分解・配分

需要家費・固定費・変動費への分解

5

水道利用の実績（令和7年度）

口径別の使用水量・料金収入

7

新料金案の比較・まとめ

3案の総合評価

2

料金改定の検討手順

料金体系の設定 → 料金表の確定

4

料金体系と基本水量の考え方

基本水量を設けた体系の取扱い

6

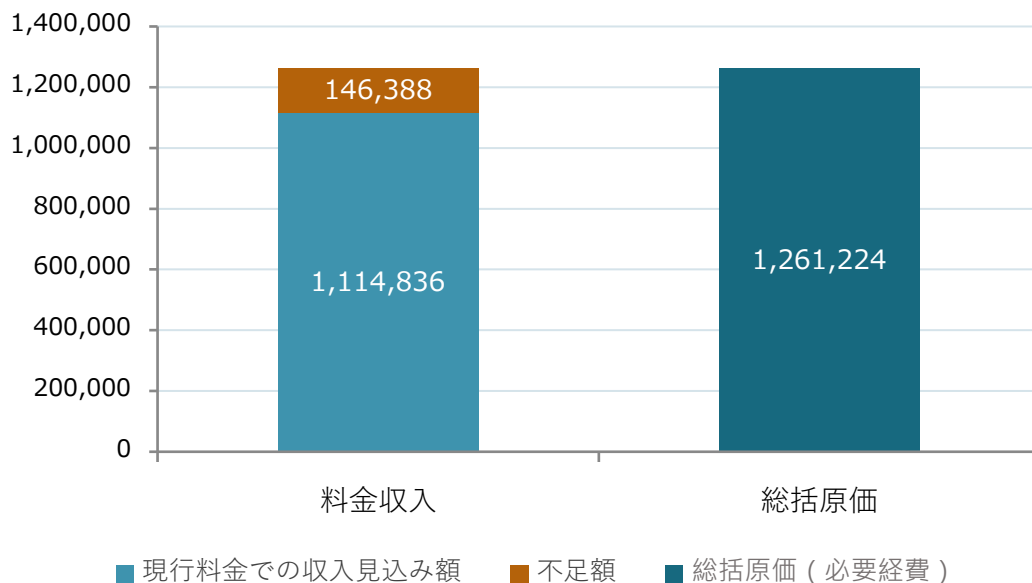
新料金表の検討

案1～案3の料金表と影響分析

1 前回審議会の確認

令和9年度から令和11年度までの3年間について、総括原価と現行料金による料金収入を比較しました。

総括原価と料金収入（令和9～11年度）（単位：千円）



総括原価（必要経費）

1,261,224 千円

現行料金での収入見込み額

1,114,836 千円

料金収入の不足額

約147,000 千円

前回審議会の結論

不足額を解消するため、
平均13～14%の引上げが必要

2 料金改定の検討手順

料金改定は、①料金体系の設定 ②料金表の確定 の2段階で検討を進めます。

STEP 1

料金体系の設定

日本水道協会が発行する「水道料金算定要領」を参考に、総括原価の配分を実施し、新料金体系の検討を行う



STEP 2

料金表の確定

STEP 1 を基に作成された料金表（案）について、検討・審議を行い、料金表の確定を行う

STEP1

3 総括原価の分解方法

総括原価は、費用の性質によって次の3つに区分されます。

需要家費

水道使用量とは関係なく、需要家（使用者）が存在することにより発生する費用

主な内容

検針費用 / 料金請求経費 / 量水器関係経費 など

→ 基本料金に反映

固定費

水道使用量とは関係なく、施設を適切に維持していくために固定的に必要となる費用

主な内容

施設の維持管理費 / 減価償却費 / 支払利息 など

→ 基本料金・超過料金に配分

変動費

おおむね水道使用水量の増減に比例して必要となる費用

主な内容

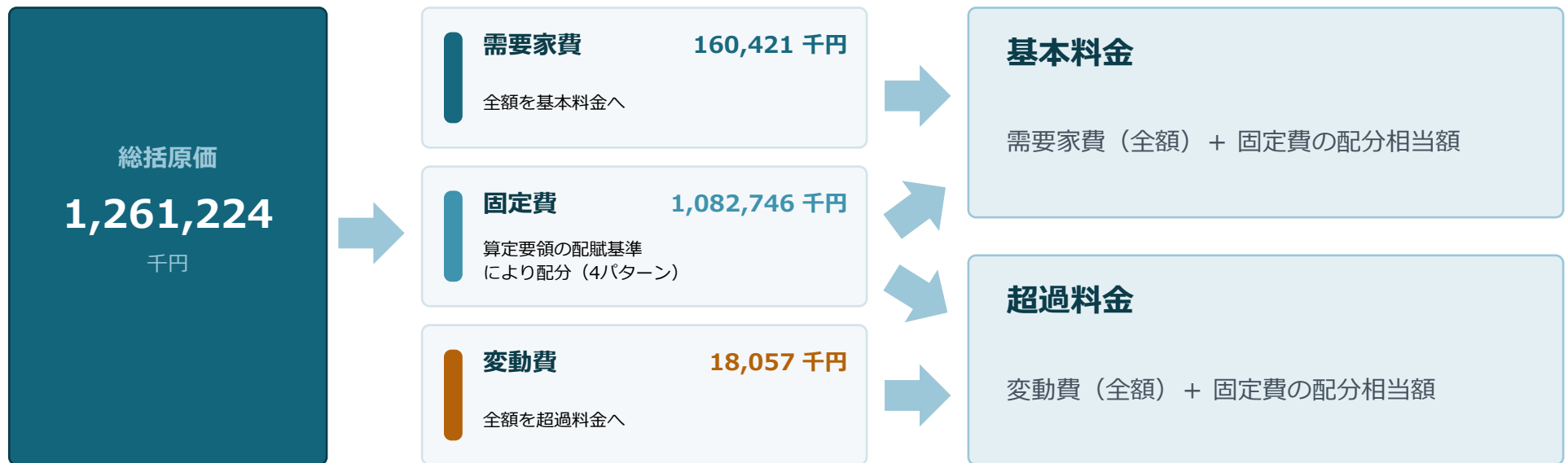
動力費 / 薬品費 など

→ 超過料金に反映

STEP1

3 総括原価の配分

3つに分解された費用を、基本料金・超過料金へ配分します。



STEP1

4 料金体系と基本水量の考え方

当市の料金体系は、基本水量を設けた料金体系を採用しています。

基本水量とは

基本料金に含まれ、一定の使用量まで超過料金を支払うことなく使用できる水量 「大町市：1か月 10 m³ まで基本水量」

日本水道協会の「水道料金算定要領」では、かつては認められていた基本水量の経過措置が終了し、現在は基本水量を設定しないことが原則とされています。

しかし、公営簡易水道との料金統合に先行して上水道の基本水量のみを廃止すると、簡易水道側の料金体系にも不整合（不一致）が生じることとなるため、料金統合までは過渡的な措置として基本水量を維持し、公営簡易水道との料金統合に合わせて基本水量を廃止することとします。

基本水量がある料金体系は「水道料金算定要領」に示されていないため、

- ・ 平均改定率
- ・ 料金収入実績
- ・ 一般家庭の負担軽減の観点

により、料金表案を作成しました

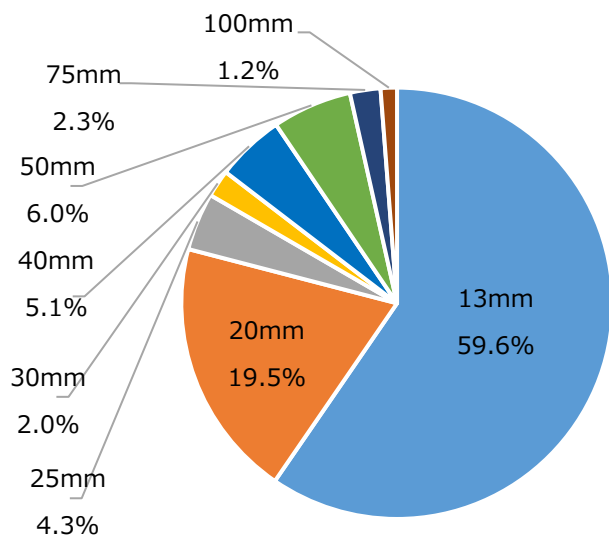
※白馬村、松本市等は料金改定により基本水量無しとなっています。

STEP1

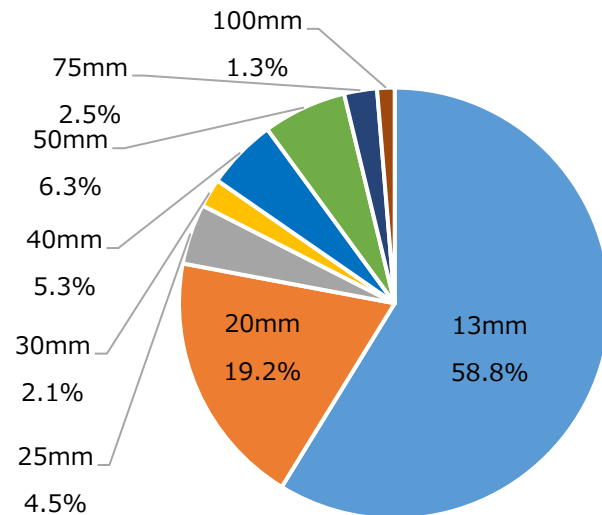
5 水道利用の実態（令和7年度実績）

- 使用水量および料金収入を見ると、約80%は一般家庭（13mm・20mm）による使用が占めている
- 一般家庭の水道使用者が料金改定の影響を最も受ける層であり、水道事業全体の料金収入を左右している

使用水量（令和7年度実績）



料金収入（令和7年度実績）



区分	家庭用		事業用					
口径	13mm	20mm	25mm	30mm	40mm	50mm	75mm	100mm
主な用途	一般住宅		アパート、店舗、病院、学校、工場					
使用水量（千㎡）	1,503	491	109	51	129	150	58	31
料金収入（千円）	251,041	81,920	19,373	9,177	22,650	26,822	10,531	5,592

STEP2

6 新料金表の検討 | 3案の全体像 (参考資料も併せてご確認ください)

平均改定率13.13%を、基本料金と超過料金にどう配分するかによって3つの案を作成しました。

案1

一律改定方式

基本料金 **13.13%**

超過料金 **13.13%**

現行料金表に一律の改定率を乗じる

案2

R 7 年度料金実績の比率に基づく改定方式

基本料金 **11.00%**

超過料金 **15.00%**

料金収入実績比率に基づき、基本料金・超過料金を改定

案3

超過料金のみ改定方式

基本料金 **0%**

超過料金 **24.00%**

基本料金は据置き、超過料金のみを改定

※ 改定率は基本料金・超過料金それぞれに乘じる率です。10円未満切り捨てにより、口径別に実際の改定率のばらつきが生じます。

STEP2

案 1 | 一律改定方式

基本料金に 13.13%、超過料金に 13.13% の改定率を乗じた料金表です。

口径	現行 基本料金	新 基本料金	改定率
13mm	1,320円	1,493円	13.11%
20mm	1,430円	1,618円	13.15%
25mm	1,540円	1,742円	13.12%
30mm	1,650円	1,867円	13.15%
40mm	1,760円	1,991円	13.13%
50mm	3,300円	3,733円	13.12%
75mm	4,180円	4,729円	13.13%
100mm	5,170円	5,849円	13.13%

基本料金（1 か月あたり）

※ 10円未満切り捨てにより、口径別に改定率のばらつきが生じます。

超過料金（1 mあたり）	現行	改定後	改定率
一般・病院用	154円	174円	13.13%
その他用	176円	199円	13.13%

基本料金 改定率

13.13%

超過料金 改定率

13.13%

STEP2

案 1 | 使用者への影響（一律改定方式）

口径別の平均使用水量をもとに、2か月分の請求額がどのように変わるかを試算しました。

口径 / 平均使用水量	現行 請求額	改定後 請求額	増加額（1回）	年間 増加額
13mm 28.8㎡	3,990円	4,510円	+520円	+3,120円
20mm 34.9㎡	5,150円	5,830円	+680円	+4,080円
25mm 93.8㎡	16,060円	18,170円	+2,110円	+12,660円
30mm 146.6㎡	25,580円	28,940円	+3,360円	+20,160円
40mm 320.4㎡	56,390円	63,790円	+7,400円	+44,400円
50mm 447.4㎡	81,820円	92,560円	+10,740円	+64,440円
75mm 768.5㎡	140,090円	158,490円	+18,400円	+110,400円
100mm 1,285.1㎡	232,990円	263,590円	+30,600円	+183,600円

※ 平均使用水量は2か月分。13mm・20mmは一般家庭、25mm以降はその他の使用水量です。

一般家庭への影響（2か月分）

13mm（平均 28.8㎡）

3,990円 → **4,510円**

1回あたり +520円 / 年間 +3,120円

20mm（平均 34.9㎡）

5,150円 → **5,830円**

1回あたり +680円 / 年間 +4,080円

STEP2

案 2 | 料金比率実績に基づく改定方式

基本料金に 11.00%、超過料金に 15.00% の改定率を乗じた料金表です。

口径	現行 基本料金	新 基本料金	改定率
13mm	1,320円	1,465円	10.98%
20mm	1,430円	1,587円	10.98%
25mm	1,540円	1,709円	10.97%
30mm	1,650円	1,832円	11.03%
40mm	1,760円	1,954円	11.02%
50mm	3,300円	3,663円	11.00%
75mm	4,180円	4,640円	11.00%
100mm	5,170円	5,739円	11.01%

基本料金（1か月あたり）

※ 10円未満切り捨てにより、口径別に改定率のばらつきが生じます。

超過料金（1mあたり）	現行	改定後	改定率
一般・病院用	154円	177円	14.94%
その他用	176円	202円	14.77%

基本料金 改定率

11.00%

超過料金 改定率

15.00%

STEP2

案 2 | 使用者への影響（料金比率実績に基づく改定方式）

口径別の平均使用水量をもとに、2か月分の請求額がどのように変わるかを試算しました。

口径 / 平均使用水量	現行 請求額	改定後 請求額	増加額（1回）	年間 増加額
13mm 28.8㎡	3,990円	4,480円	+490円	+2,940円
20mm 34.9㎡	5,150円	5,810円	+660円	+3,960円
25mm 93.8㎡	16,060円	18,320円	+2,260円	+13,560円
30mm 146.6㎡	25,580円	29,230円	+3,650円	+21,900円
40mm 320.4㎡	56,390円	64,580円	+8,190円	+49,140円
50mm 447.4㎡	81,820円	93,660円	+11,840円	+71,040円
75mm 768.5㎡	140,090円	160,470円	+20,380円	+122,280円
100mm 1,285.1㎡	232,990円	267,020円	+34,030円	+204,180円

一般家庭への影響（2か月分）

13mm（平均 28.8㎡）

3,990円 → **4,480円**

1回あたり +490円 / 年間 +2,940円

20mm（平均 34.9㎡）

5,150円 → **5,810円**

1回あたり +660円 / 年間 +3,960円

※ 平均使用水量は2か月分。13mm・20mmは一般家庭、25mm以降はその他の使用水量です。

STEP2

案3 | 超過料金のみ改定方式

基本料金に 0%、超過料金に 24.00% の改定率を乗じた料金表です。

口径	現行 基本料金	新 基本料金	改定率
13mm	1,320円	1,320円	0.00%
20mm	1,430円	1,430円	0.00%
25mm	1,540円	1,540円	0.00%
30mm	1,650円	1,650円	0.00%
40mm	1,760円	1,760円	0.00%
50mm	3,300円	3,300円	0.00%
75mm	4,180円	4,180円	0.00%
100mm	5,170円	5,170円	0.00%

超過料金（1mあたり）	現行	改定後	改定率
一般・病院用	154円	191円	24.00%
その他用	176円	218円	24.00%

基本料金 改定率

0%

超過料金 改定率

24.00%

基本料金（1か月あたり）

※ 10円未満切り捨てにより、口径別に改定率のばらつきが生じます。

STEP2

案3 | 使用者への影響（超過料金のみ改定方式）

口径別の平均使用水量をもとに、2か月分の請求額がどのように変わるかを試算しました。

口径 / 平均使用水量	現行 請求額	改定後 請求額	増加額（1回）	年間 増加額
13mm 28.8㎡	3,990円	4,320円	+330円	+1,980円
20mm 34.9㎡	5,150円	5,700円	+550円	+3,300円
25mm 93.8㎡	16,060円	19,180円	+3,120円	+18,720円
30mm 146.6㎡	25,580円	30,920円	+5,340円	+32,040円
40mm 320.4㎡	56,390円	69,070円	+12,680円	+76,080円
50mm 447.4㎡	81,820円	99,870円	+18,050円	+108,300円
75mm 768.5㎡	140,090円	171,710円	+31,620円	+189,720円
100mm 1,285.1㎡	232,990円	286,430円	+53,440円	+320,640円

※ 平均使用水量は2か月分。13mm・20mmは一般家庭、25mm以降はその他の使用水量です。

一般家庭への影響（2か月分）

13mm（平均 28.8㎡）

3,990円 → **4,320円**

1回あたり +330円 / 年間 +1,980円

20mm（平均 34.9㎡）

5,150円 → **5,700円**

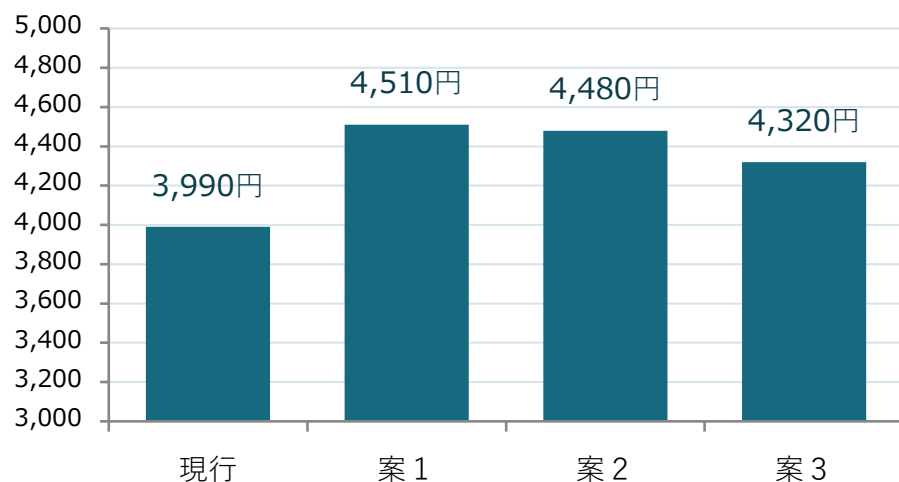
1回あたり +550円 / 年間 +3,300円

STEP2

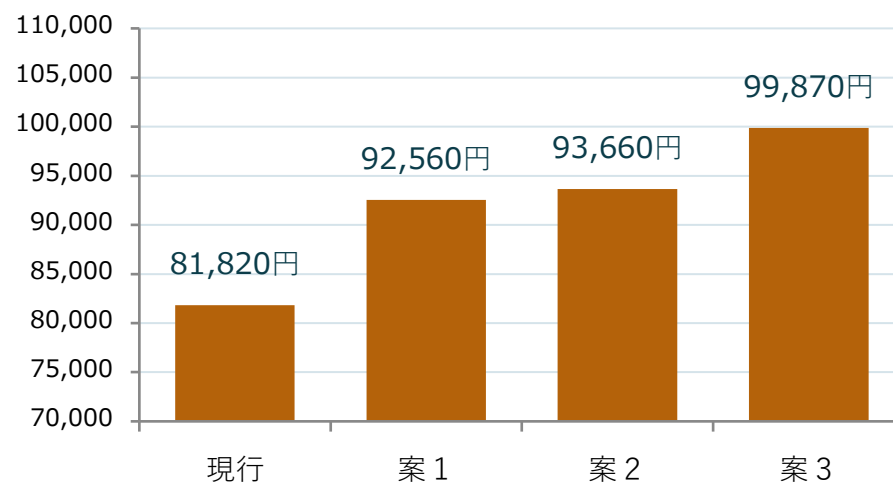
7 3案の比較 | 使用者区分ごとの請求額

同じ平均改定率でも、配分方法によって一般家庭と大口使用者の負担の出方が変わります。

一般家庭（13mm）の2か月請求額



大口使用者（50mm）の2か月請求額



STEP2

3案の比較

3つの観点から、3案を総合的に比較しました。

比較の観点	案1 一律改定	案2 料金比率実績	案3 超過料金のみ
改定率（基本／超過）	基本 13.13% / 超過 13.13%	基本 11.00% / 超過 15.00%	基本 0% / 超過 24.00%
負担配分の考え方 （優劣ではなく方針の違い）	すべての利用者が 同じ率で負担する	使用量が多い層が やや多く負担する	使用量が多い層が 大きく負担する
① 年間いくら増加するか 〔一般家庭・年間増加額〕	△ 年 +3,120～4,080円 基本水量以内 2か月 +340～370円	○ 年 +2,940～3,960円 基本水量以内 2か月 +290～310円	◎ 年 +1,980～3,300円 基本水量以内 負担増なし
② みんなで支える形か 〔特定の層への偏り〕	◎ 全員がほぼ同率で負担 平均使用量での改定率 13.0%～13.2%	○ 緩やかな差にとどまる 平均使用量での改定率 12.3%～14.6%	△ 事務所・共同住宅に集中 平均使用量での改定率 8.3%～22.9%
③ 将来の安定性 〔使用水量の減少への耐性〕	◎ 現行の収入構造を維持	○ 超過料金の比重が上がる	△ 超過料金への依存が最大